様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 ３０ 日現在

機関番号：４４１０４
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２００９２

研究課題名（和文）過疎地域の宗教ネットワークと老年期宗教指導者に関する宗教社会学的研究

研究課題名（英文）Sociological Studies of the religion network in depopulated areas and religious leaders in old age

研究代表者
川又　俊則（KAWAMATA, TOSHINORI）

鈴鹿短期大学・その他部局等・教授

研究者番号：４０４２５３７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,900,000円、（間接経費）　1,170,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果の概要は、以下の通りである。①過疎地域の宗教集団は一定の機能を有し、今後も地域のネットワークとして機能する可能性が十分ある。②老年期の宗教指導者は、教団等地域外とのコミュニケーションツールを持ち、地域住民に、外と内をつなぐネットワークの結節点となっていた。③老年期にUターンや初めての土地で宗教指導者となる選択をする人もいる。彼ら・彼女らの例から、老年期の多様な生き方のモデルが見出された。④過去の調査および、10年、20年を経た後の再調査の重要性を再認識した。

研究成果の概要（英文）：The outline of the results of this study is as follows: 1) Religious groups in depopulated areas play certain functions, and they have a good chance to continue to act as regional networks, 2) Religious leaders in old age have communication tools with outside of their regions such as religious communities, and they are the network nodes that connect local residents with outside, 3) Some people choose to become religious leaders when they return to their hometowns in their old age. From their examples, various ways of living old-age life were found out, and 4) Importance of previous studies as well as re-examination after 10 or 20 years was re-acknowledged.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学　宗教学

キーワード：過疎　ネットワーク　宗教集団　老年期　指導者　宗教学　社会学　ライフヒストリー

１．研究開始当初の背景

人口減少時代を迎えた日本において、過疎地域の複合的対策は喫緊の課題であり、都市部での生産年齢人口の大幅減少への対応も余儀なくされる。「限界集落」地域への多分野の調査研究が見られる。地元住民の前向きな姿勢からコミュニティ維持の例も見出された。だがそれら先行研究に宗教の視点はなかった。各教団も個別状況は把握しているが、地域社会での宗教ネットワーク全容は視野になかった。

江戸時代は地域ネットワークの中心に位置した神社・寺院、明治時代に教育文化の発信源の一つだったキリスト教会は、いまや地域社会の中心と見なされない。これらは再び地域社会の拠点になり得るだろうか。これまで高齢者たちの心の支えだった宗教集団の現況や変化について、宗教界全体を掌握した宗教社会学的視点での研究は火急の課題であるとして、本研究が実施された。

２．研究の目的

本研究は、三重県という一県を対象にした事例研究だが、①過疎地域での宗教ネットワークの可能性の考察、②老年期宗教指導者の生活状況の考察、という 2 点を追究することを目的においた。

前者については、分担研究者が各宗教集団で調査検討し、各々の特徴を見た。各年度 1 回ずつ共同調査を行い、先進性・先見性に富みつつ、地味な努力で地域社会の過疎化・高齢化に対応した先駆的な取り組みを考察し、過疎地域を維持発展させる拠点となり得るかどうか、他地域で応用可能かどうかを検討した。

後者については、各教団で活躍する老年期宗教指導者のライフヒストリー・インタビューを描くことを試みた。質問紙の回答を数値で分析するのではなく、個別ケースをライフヒストリー・インタビューで詳細に捉えることで、対象者の人生に深く迫ろうとした。複数兼務の状況、老年期の生活実態、後継者問題、地域の変化（高齢化・過疎化）への対応等を詳細に聞き取った。地域の特性・宗教間の差異等も見出した。

３．研究の方法

3 年間を通じ、文献・各教団等の新聞・機関誌等から過疎地域と宗教集団（各教派等）および宗教者の老年期に関する情報を入手した。また、過疎地域とネットワーク、ソーシャル・キャピタルに関連するに関連する先行研究を検討した。

キリスト教・仏教・神道・新宗教の調査研究、地域研究	川又俊則（研究代表者）
仏教の調査研究、地域研究	武笠俊一（研究分担者）
神道の調査研究、地域研究	板井正斉（同）
新宗教の調査研究、地域研究	磯岡哲也（同）

4 人の共同研究者は、各人に与えられたテーマに従って、個別調査を実施した。共同調査では、過疎地にある教会・神社・寺院の複数や様々な移設の視察、三重県過疎地域の行事等の見学を実施した。関連テーマで講師を招いての研究会も実施した。高齢の宗教指導者へのライフヒストリー・インタビューは、代表者が主に実施した。

４．研究成果

4-1　年度別の成果（調査・研究会等）

[平成 23 年度]

2011 年 8 月、研究会（予備調査、限界寺院他）および共同調査（大紀町・大台町での施設・教会見学、津市の寺院・神社見学等）を実施。11 月、研究会（過疎神社、高齢宗教指導者他）を実施。12 月、研究会（仏教寺院と

経済）および共同調査（大紀町・尾鷲市・紀北町の寺院見学等）を実施。2012 年 2 月、研究会（過疎地域と仏教、災害復興支援と宗教）および共同調査（津市の寺院・神社等の見学）を実施。初年度なので、個別研究の中間報告や講師を招いての関連テーマに関する研究会を多く開催し、各人がテーマへの理解を深め、より多くの情報収集ができるようにした。

[平成 24 年度]

2012 年 7 月、研究会（曹洞宗寺院と経済・過疎、過疎神社の調査）および共同調査（熊野市の神社、熊野市紀和町での寺院・神社・新宗教教会、近接する御浜町・紀宝町での寺院等の見学や宗教指導者・信者等へのインタビュー）を実施。9 月、研究会（櫛田川上流域のムラと神々）および共同調査（松阪市飯南町・飯高町の神社・旧寺院等、津市美杉町・津市一志町の寺院等の見学や宗教指導者等へのインタビュー）を実施。11 月 4 日、日本社会学会で個人発表。11 月、研究会（三重県の民俗調査）を実施。2013 年 2 月、研究会（年中行事と関連書の勉強会）を実施。3 月、研究会（神島について）および共同調査（鳥羽市立図書館および鳥羽市神島）を実施。個別調査も進み、当初予定していた以外の対象者を開拓した。3 月の共同調査は次年度予定を前倒しして実施した。代表者は他の研究会でも報告・論文発表等を行った。

[平成 25 年度]

2013 年 7 月、共同補充調査（熊野市）、8 月、研究会（パネル発表、個人発表の検討）・見学会（鈴鹿市・津市）を実施。9 月 7 日、日本宗教学会でパネル発表「過疎地域における宗教ネットワークの可能性―三重県を事例に―」を行った。4 名が口頭発表、1 名がコメント、その後、会場での質疑応答があった。その議論を経て、各自が論文を作成し、報告書に収録。10 月 12 日、日本社会学会で個人発表。質疑応答を経て、論文を報告書へ収録。代表者は他の研究会でも報告・論文発表等を行った。

各個別調査もそれぞれ展開し、パネル発表以外の形で報告書に論文として収録。3 年間の記録、研究会講師のエッセイを含めた報告書を刊行。本研究は 3 年間の予定通りに進むことができ、成果を報告書の形でまとめることができた。

4－2　概要

本研究の成果は A4 判 135 頁の報告書『過疎地域における宗教ネットワークと老年期宗教指導者に関する宗教社会学的研究』に 8 編の論文を収録し、研究会記録その他も収録して示したが、その概要をごく簡単にまとめると以下の通りになる。

①過疎地域の宗教集団は一定の機能を有し、今後も地域のネットワークとして機能する可能性が十分ある。

②老年期の宗教指導者は、教団等地域外とのコミュニケーションツールを持ち、地域住民に、外と内をつなぐネットワークの結節点となっていた。

③老年期に、Uターンや初めての土地で宗教指導者となる選択をする人もいる。彼ら・彼女らの例から、老年期の多様な生き方のモデルが見出された。

④過去の調査および、10 年、20 年を経た後の再調査の重要性を再認識した。

②と③は若干補足しておく。

従来の伝統的な宗教ネットワークの維持に加えて、新しいネットワーク形成している例があった。人口減少という地域社会の変化に宗教指導者が応えたものであり、宗教の枠にとどまらない多様な活動も見られた。まさに宗教集団内外の「二重のネットワーク」と言えよう。宗教指導者のみならずその家族も様々な形で、宗教集団にかかわっていることも忘れてはならない。定年退職以後、平均寿命年齢までの 15～20 年間を地域社会で過ごす一般の人びとが、信者や檀家などとして活

動する例もあり、老年期宗教指導者や同年代の信者・檀家などとの交流に大きな意義も見られる。同時代を生きる人びとにとって生き方のモデルに宗教指導者がなりうることも確認された。

4-3　今後の課題

三重県での調査による上記の知見が、他県、あるいは三重県で準過疎指定されている地域等でも適応可能かどうかという確認が必要である。また、やがては日本全体に参照されるべきことであることを念頭に、本調査（地域・宗教集団・宗教指導者）に対する継続調査も実施し、より精錬された議論を展開したい。

上記④として、平成年間での大きな変化はどの地域でも見出されており、過去の調査（記録）を参照しつつ、現在の動向を考察することの重要性を改めて認識した。各地域で過去に実施された民俗調査・宗教調査などの成果を、現代に読み直す作業の重要性はとくに指摘したい。これは三重県内でも、他県でも必要なことだろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）
①川又俊則、答志の寝屋制度と「放課後」、生活コミュニケーション学、査読有、3 号、2012、35-42
②川又俊則、葬儀と年中行事の「継続」―三重県の過疎地域における事例を中心に―、宗教学論集、査読有、32 輯、2013、139-159
③川又俊則、葬送儀礼の簡略化と簡素化―三重県の事例を中心に―、日本における葬送儀礼―東洋大学東洋学研究所プロジェクト報告書、査読無、2013、43-54
④川又俊則、老年期に信仰を守り過ごす場所の提供―3 つの高齢者施設を事例に―、鈴鹿短期大学紀要、査読有、34 巻、2014、1-18
⑤川又俊則、老年期の後継者―昭和一ケタ世代から団塊世代へ移りゆく宗教指導者と信者たち―、現代宗教 2014、国際宗教研究所、査読有、115-138、http://www.iisr.jp/journal/journal2014/

〔学会発表〕（計６件）
①川又俊則、宗教指導者の老年期の過ごし方―牧師・元牧師の語りを中心に―、第 85 回日本社会学会大会、2012 年 11 月 4 日、札幌国際大学
②磯岡哲也、過疎と宗教ネットワークの存続―松阪市飯高町森地区の事例―、
③川又俊則、老人福祉施設で出会う宗教―大紀町・大台町の事例―
④板井正斉、祭礼を担うことの不合理―老人たちの島・鳥羽市神島の事例―
⑤冬月律、子どもたちとともに形成する宗教間ネットワーク―紀和町の事例―
以上、②～⑤はパネル「過疎地域における宗教ネットワークの可能性―三重県を事例に―」として、日本宗教学会第 70 回大会、2013 年 9 月 8 日、國學院大學、における発表
⑥藤喜一樹、ソーシャル・キャピタルとしての寺院の役割について、第 86 回日本社会学会大会、2013 年 10 月 12 日、慶應義塾大学

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
川又　俊則（KAWAMATA, Toshinori）
鈴鹿短期大学・生活コミュニケーション学科・教授
研究者番号：40425377

(2)研究分担者
武笠　俊一（MUKASA, Shunichi）
三重大学・人文学部・教授
研究者番号：50157715

板井　正斉（ITAI, Masanari）
皇學館大學・現代日本社会学部・准教授
研究者番号：40351225

磯岡　哲也（ISOOKA, Tetsuya）
淑徳大学・コミュニティ政策学部・教授
研究者番号：90201920